

5mのナメ滝がわずかに華をそえているだけの沢である。

小滝2つを越えてゆくと、沢は湿地に入り、その先は伐採地となってヤブがひどくなる。苦勞してここを抜けるとすぐに道路へ出た。

「ここらあたりの沢で一番苦勞することは？」と聞かれたなら、伐採地のヤブを一番にあげることだろう。そんな感じを強くもつ沢である。
(記・尖戸事務)

【タイム】 馬道沢出合(12:40)→終了(13:00)

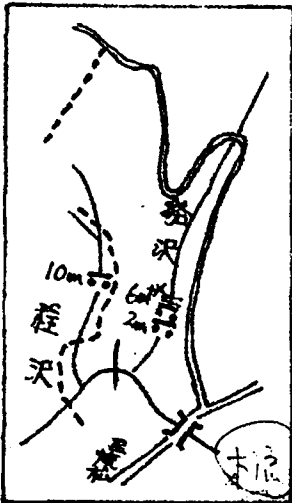
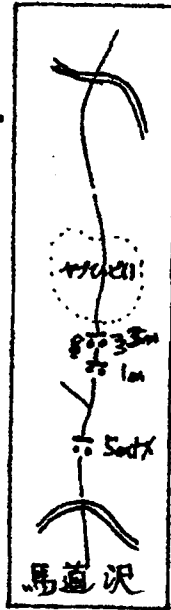
翁沢

1984年6月9日

L

橋から少し下って翁沢に入る。15:00進行開始。

最初からチヨロチヨロした流れの中を進む。そしてすぐヤブとなった。小滝と6mのナメ滝を越えると、沢はナメとなり、わきの道路とほぼ同じ高さとなる。水がなくなる所までつめて、道路に上がる。
(記・



【タイム】 翁沢出合(15:00)→進行終了(15:15)

程沢

1984年6月9日

L5

ヤブの急斜面を下って程沢へ。杉林の中に入ると、水が出てきた。右より支沢が合流した先に10mの滝。左の跡跡を使って下る。すぐに本流。何もない沢だ。

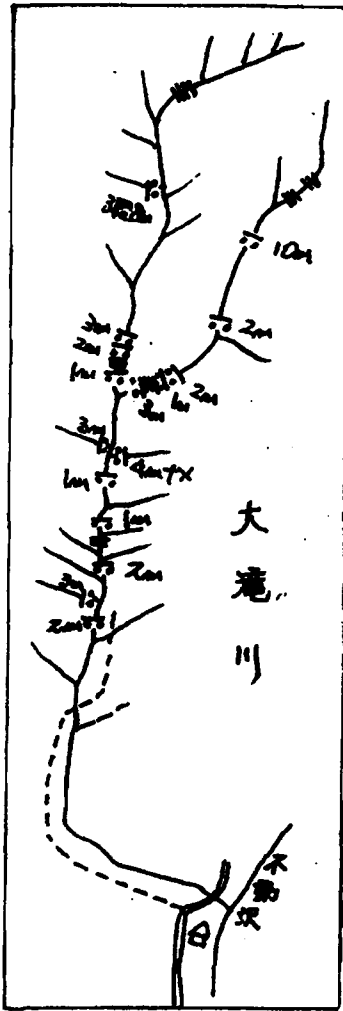
(記・

【タイム】 下降開始(15:35)→終了(15:50)

大滝川左俣・右俣

1984年7月7日

入る前から滝はないだろうと考えていたが、予想通り何もない沢だった。不動沢との出合から右岸の道を歩く。道が沢を横切る所から入流。支沢がいくつか入り、小滝もいくつか越えて進むと、やがて二俣。本流の左俣に入る。ナメと3mの小滝を越えると、あとは何もない。水線に導かれてとにかくつめて



ゆくと、やがて水も濁れ、瀬順に出てしまった。進行終了11:10。

あとはヤブをこいで尾根を越え、右俣の下降に移る。いったん出てきた水の流れが一度消え、再び出てきた先に10m階段状の滝。楽に降りられる。あとは二俣までいくつかの小滝があるのみであった。

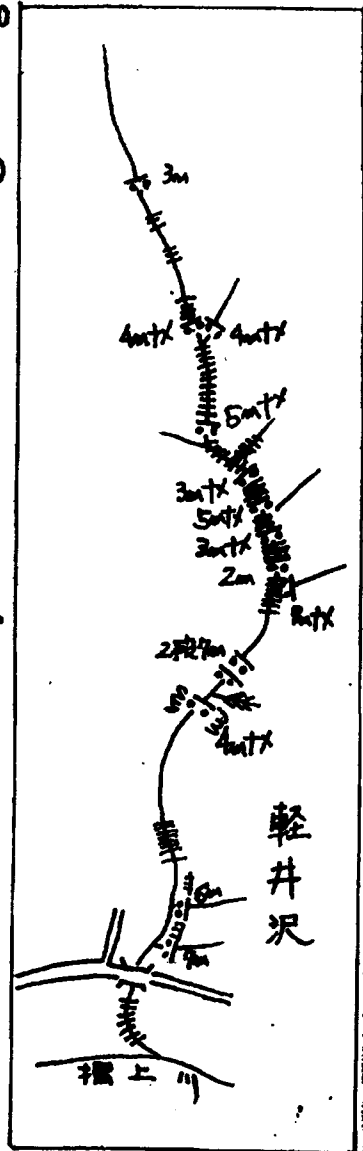
(記)

[タイム] 進行開始(9:50)
)→二俣(10:30)→終了(11:10)
 →右俣下降開始(11:40)
 →二俣・下降終了(12:15)

軽井沢

1984年8月4日

水量は少ないが、ナメの続く沢である。アブに悩まされる沢でもあった。道路より沢に下ると、下はナメである。摺上川



との合流点まで続いていた。

13:50進行開始。アブに悩まされながら進むと、4mと7m二段滝が続いて現われ、その先はナメとナメ滝が連続するようになる。水が豊富であれば、快適な沢登りが楽しめるような所だ。

やがて二俣。水量の多い右に入る。この先もナメが続く。次の二俣を左に入り、ナメを越えてゆくと、水が濁れようとするあたりで、小滝が最後の花を添えていた。進行終了14:45。

(記)

[タイム] 出合(13:50)→終了(14:45)